

令和5年度（第37回）山崎研究助成金伝達式 あいさつ

令和5年6月25日（日）

第37回山崎研究助成を受けられた皆さん、おめでとうございます。

皆さんの科学研究・科学教育へのたゆまぬ探究心・熱い思い、そして、ひたむきに取り組もうとする姿に、まずもって敬意を表します。

そして、本日の伝達式への出席に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

また、本日はお忙しい中、御臨席を賜りました県教育委員会塩崎教育監に、感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、伝達式に当たり、2つのことを皆さんにお話しようと思います。

ひとつは、「考える」ということです。

最近の目まぐるしい生成AIの発展は、私たち人間の「考える」ということに大きな影響を与えています。生成AIに文章を考えてもらい、それを有効に活用しようとする動きがある一方で、あたかも自分が考え生み出した文章・作品にしてしまうことへの危惧・懸念、そして、そのための規制も始まっています。

このような状況においても、皆さんが行おうとしている科学の研究は、自ら計画・立案した実験・観察を通して、新たな見解・理論を組み立てていく活動であり、この実体験を踏まえて「考える」という営みは、当事者にしかできないことで、それは、生成AIをもってしてもできることではありません。

皆さんには、これまで誰も歩いたことのない道、まさに未知の道を切り拓いていくという誇りをもって、自ら「考える」ことに喜びを感じながら、研究に打ち込んでほしいと願っています。時には、生成AIを上手に活用しながら。

2つ目は、山崎自然科学教育振興会が、本年度、創立40年を迎えたことについてです。

昭和58年、当時TDK株式会社の社長であった山崎貞一氏が、「次代を担う少年少女の『科学する心の芽』を育てる」という強い願いのもと、私財を投じて、本財団を設立されました。

以来、顕彰・助成・啓発を3本の柱として、事業に取り組んでまいりました。

創立40年を機に、これまで実施してきた屋内での科学教室に加え、屋外（野外）での自然科学教室を、本年度は伊豆ジオパークをフィールドにして行うこととしており、現在、小学校5・6年生の参加者を募集しています。

また、来年2月の第40回山崎賞授賞式と併せて、記念講演会を、講師に中学・高校時代に山崎賞を受賞された杉田篤史静岡大学教授をお招きして、開催する予定です。

本日助成を受けられた皆さんには、今後の研究の成果を山崎賞受賞につなげ、記念講演を是非、聞いていただけたらと願っています。

山崎自然科学教育振興会は、創立50年に向け、新たな歩みを重ねていきたいと考えております。皆さんの御理解と御協力を引き続きお願いいたします。

結びに、審査に当たられました新林選考委員長をはじめ選考委員の皆様、そして、日ごろから子どもたちの研究を支えてくださっている先生方、保護者の皆様、関係各位に感謝を申し上げ挨拶とします。

本日は、おめでとうございます。